

模試と同傾向の出題 ～ベネッセ・駿台模試より～

| 国語 | |
|--|--|
| センター試験・第1問 問6 (ii) | 第3回ベネッセ・駿台マーク模試・第1問 問6 (ii) |
| <p>(ii) この文章の第7段落以降の構成・展開に関する説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11。</p> <p>① 第7段落では、まず前段落までの内容を踏まえながら新たな問いを提示して論述の展開を図り、続けて、その問いを考えるための論点を提出している。</p> <p>② 第10段落では、具体的なキャラクターを例に挙げて第9段落の内容をとらえ直し、第11段落では、第10段落と同一のキャラクターについて別の観点を提示している。</p> <p>③ 第12段落では、百貨店やコンビニエンス・ストアなどの店員による接客といった具体例を挙げて、それまでとはやや異なる問題を提示し、論述方針の変更を図っている。</p> <p>④ 第13段落では、「くなくないでしょうか」と表現を重ねることで慎重に意見を示し、第14段落では、日常での具体例を挙げながら、第13段落の意見から導き出される結論を提示している。</p> | <p>(ii) この文章の構成に関する説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11。</p> <p>① 第1段落で述べられている内容は、これ以降で展開されていく筆者の論の立脚点となっている考え方をあらかじめ包括的に示すことで、本文全体の導入としての役割を果たすものとなっている。</p> <p>② 前半(第5段落まで)でも後半(第6段落以降)でも、比較的受け入れやすい事例から説き起こし、そこから導かれる考えをもとに、通念を覆すような主張へと話を進めていく、という論じ方がとられている。</p> <p>③ 第6～第9段落の論旨は第10段落以降の論旨の前提となる内容を述べたものであり、第10段落以降でそれらを踏まえつつ、本文前半(第5段落まで)の論旨をも受けて発展させていくという構成となっている。</p> <p>④ 第12・第13段落は筆者の反対側の意見の紹介であり、第14段落でそうした見方を批判する論者の意見を引用したうえで、第15段落でそれに依拠しつつ具体例を通して筆者自身の主張を述べている。</p> |

今回のセンター試験の第1問現代文・評論 問6 (ii) では、文章の構成・展開に関する設問が出題された。昨年は「表現に関する説明として適当でないもの」を答える8肢2択の設問1つであったが、今年は〈表現〉について (i) の枝問で、〈構成・展開〉について (ii) の枝問で問う形となっている。

第3回ベネッセ・駿台マーク模試の第1問現代文・評論 問6でも、〈表現〉〈構成〉に関する2つの枝問を出題した。〈表現〉〈構成〉いずれの枝問も、問題文と選択肢とを対照させて吟味すれば正答を選べるものだが、特に (ii) の〈構成〉の枝問は、部分を丁寧に読みとりつつも問題文全体の論の構成や展開を俯瞰的に把握して適否を判断する必要がある。

形式ならびに、問題文全体の趣旨を踏まえながら問題文を構造的に読み、筆者がどのように論を組み立てているのかを把握する力が求められる点で、類似した出題であった。